中国怪奇小説集

凡例

岡本綺堂

一、この一巻は六朝・唐・五代・宋・金・元・明・清の小説筆記の類から二百二十種の怪奇談を抄出した。敢て多しというではないが、これに因って支那のいわゆる「志怪の書」の大略は察知し得られると思う。

一、この一巻を成したのは、単に編者の猟奇趣味ばかりでない。編者の微意は本文中の「開会の辞」に悉されているから、ここに重ねて言わない。

一、訳筆は努めて意訳を避けて、原文に忠ならんことを期した。しかも原文に拠ればとかくに堅苦しい漢文調に陥るの弊あり、平明通俗を望めば原文に遠ざかるの憾みあり、その調和がなかなかむずかしい。

殊に浅学の編者、案外の誤訳がないとは限らない。謹んで識者の叱正を俟(ま)つ。

一、同一の説話が諸書に掲出されている例は少なくない。甲に拠るか、乙を探(さぐ)るか、時代の先後によるか、その採択に迷う場合もしばしばあったが、それは編者が随意に按排(あんばい)することにした。

一、支那には狐、鬼、神仙の談が多い。しかも神仙談は我が国民性に適しないと見えて、比較的に多く輸入されていない。したがって、この集にも神仙談は多く採らなかった。

昭和十年九月、古中秋無月の夕

岡本綺堂

底本：「中国怪奇小説集」光文社文庫、光文社
　　１９９４（平成６）年４月20日第1刷発行
　　１９９９（平成11）年11月5日第3刷発行
※校正には、１９９９（平成11）年11月5日3刷を使用しました。
入力：tatsuki、門田裕志
校正：小林繁雄、もりみつじゅんじ
２００３年7月31日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、

校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。